

Profile

映画ソムリエ。雑誌やWebをはじめ、映画公開イベントでのMCとしても活動中。独自視点のレビューが人気で、映画だけでなくカルチャーへの愛が止まらない。

自動車業界の伝説エンツォ・フェラーリの1957年に焦点を当て、エンツォという人物の光と影、そして公道レース「ミツレミア」のフェラーリ・チームの激戦の行方を追った衝撃の実話です。

監督はロバート・デ・ニーロ×アル・パチーノの熱演が話題となった『ヒート』やオスカー候補となった『インサイダー』などの数々の傑作で知られ、『フォードVSフェラーリ』では製作総指揮を務めたマイケル・マン。今作『フェラーリ』は数々の秀作を世に送り出した監督にとっても構想30年に及ぶ執念の結晶です。

主演のアダム・ドライバーは、スター・ウォーズで世界的スターに上り詰めた、イーストウッド、

Vol.1

観 百 画 映



『フェラーリ』

7月5日(金) TOHO シネマス日比谷ほか全国ロードショー
 ©2023 MOTO PICTURES,LLC. STX FINANCING,LLC. ALL RIGHTS RESERVED.
 配給:キノフィルムズ
 監督:マイケル・マン(『ヒート』)
 脚本:トロイ・ケネディ・マーティン
 原作:ブロック・エイツ著『エンツォ・フェラーリ 疾走馬の肖像』
 出演:アダム・ドライバー、ペネロペ・クルス、シャイリーン・ウッドリー、パトリック・デンブシー
 2023年 | アメリカ | 英語・イタリア語 | カラー・モノクロ | スコープサイズ | 原題:FERRARI | 字幕翻訳:松崎広幸 | PG12
 www.ferrari-movie.jp

スピルバーグ、スコセッシなど錚々たる顔ぶれから信頼を寄せる俳優。現在40歳の彼は毎日2時間以上のヘアメイクをかけて、彼の歴史、呼吸、歩き方、話し方なども研究し当時59歳だったF1界の「帝王」になり切った。長年連れ添った妻との家庭不和、ひそかに愛を育むもう一つの家庭との間で思い悩むその様

は、エンツォを偉大な人物ではなくまるで身近な人物のように映し出していく。同時に一部からは仕事への姿勢が独裁的、複雑な性格といわれたエンツォを「常に心のエネルギーを燃やしている存在」としてドライバーは魅力的に演じ切る。また、その年の開催が最後となったイタリア全土1000マ

イル縦断の一般道を時速150kmで疾走する「ミツレミア」のレースシーンは、圧巻。当時の看板や広告までリサーチし、時代を緻密に再現した緊迫感と没入感のあるレースシーンです。公道レースとは、神の領域に踏み込む行為なのかもしれない。実話なのでこのレースで何が起きるかはご存知の人もいるかもしれないが、その後エンツォがどんな選択をし、何を想い生きていくのか、スクリーンで感じてほしい。爆音で走り切るフェラーリのレースだけを描くものではなく、マン監督が得意とする仕事と家庭の間で揺れ動く人間の孤独や寂寥感、無常さが描かれた重厚な人間ドラマとして見事に昇華されている。

観る人すべてが、人生を想起させる「エンツォ・フェラーリ」という男